（二十五日夕刊）
休刊　大祭日　第一・第三日曜
定價　一部二錢　郵稅一ケ月六十錢　十五錢
廣告料　重行六十錢　特定廿錢
發行所　聲城新聞社
福島縣平町田町十六番地
印刷人　鹽澤直輔
印刷所　聲城新聞社印刷工場

病床追想

宗像生

□□□

吾が病かりそめならずくさ〳〵のことを思ひつゝ心暗しも

寢つかれぬ夜はさびしもよく眠る隣の患者羨しかり

晨夜中によめざめたりかすかなる痛みある胸をさすりぬにけり

看護婦のたはむれ遊ぶ聲きこゆ庭の芝生も青みまさりたり

春の雨こまかに降りて靜事にちかし病みの目ざめのさみしかりけり

看護婦を使に出してさびしげり一人待ちをり雨日暮れを

隣家の倘爲のこの日曉やうやく鳴くを覺えたるらし

新芽立つ庭木にけぶる今日の雨はるゝともなく日は暮れにけり

日給が三十五錢働がいやになりしと言ひ越す妹る意地あれば吉

おもひにふれ

松本ふみ代

言葉なく去りにしひとにひめられし思ひにふれつ一年に近し

一年のなげきにつかれし吾こゝろすなほにいくるすべを奪へり

ひめつゝをたもふこゝろもあるときはたぬしと思ふまぐれ心

さながらにいにしへ人のあるがごと身ぬちに覺ゆこゝにしのれば

いこはんや池のかたへに佇めば吾かげ黑く水にみだるゝ

一足の歩みにたもつひゞきなりあしたの風にこゝろよきかも

くれなひの花かんざしにふれにつゝぼしとは思はぬ潤すたもひあり

いつの間か花かんざしのそれとなく郵便の下くれなひはゝなやかすぐ

…落はなりたり

講談　赤鞘安兵衛

東京　桃川燕二演
村田月光書

（七）

「扨は年老ひたる旅の武士とは我父安左工門に相違ない、是れ安之助其のた武藏子の罵り幾年も男世帶で家は其方のためにはちし樣貧に苦しめられては着替へも無ければ、中山なれ方が私のたちい樣々で安太郎俄かに立ち上つて「父上あの立派な衣類もありませぬ、腹に及びございますか」安太郎その印「仰、一緒に參れ、たちは少しかちで參らうと思よ「毎日〳〵鵜龍にから居ては、宿へ着いた丸藥の下には小粒がゾクなりあしたの風にこゝろよきかも

月光

く御面立——「供の者今日御座いますか、夫れでは……」——「私が歸るときはソ……」鵜龍は先へやり、「たひろいで御座います」——「毎日〳〵鵜龍に」——「たひろいで御座います」——「あゝたのもう」——「おちいために好な」——「私が歸るときはソ……」鵜龍は先へやり、

吉田眼科病院

平町紺屋町

夏向の

小供洋服生地と
新柄レース　一寸巾から二尺巾まで
澤山入荷致しました

婦人手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

夜間診療

胃腸専門
內科　十二指腸虫病　淋病　婦人病　皮膚病
內科部　外科部
松村胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）

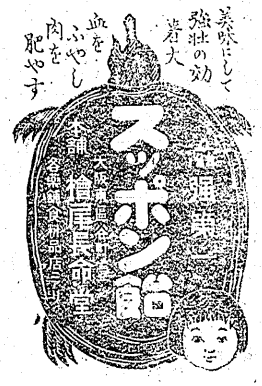
カルニチン錠

發賣七週年
登錄商標認可
TRADE MARK
記念特賣
7月22日ヨリ8月10日マデ20日間
一〇〇〇打二限
景品付大提供
御買上高
半打ニ　名入セルロイド石鹼入……一個
一打ニ　實用大型洗面器……一個
一ケ……金拾錢
半打進物箱入　金六拾錢
ツルヤ商店
平町四丁目百四十番

貸切は

磐城タクシーへ
電話四五四番
平驛前

清楚な　サロン
明るい　サロン
洋酒は　サロン
田町通り
清楚な食堂　サロン
電三五二
食事は　サロン
奉仕は　サロン
僕等の　サロン
サロンの公休日は毎月第三火曜日に變更いたしました



スッポン飴　一圓
スッポン酒　二圓
スッポンヘモクロビン錠　三圓
平町五丁目角
山野邊藥局

磐城刀劍保存會

我國三千年來大和魂の眞髓武士道の精華である刀劍は其影を消さんとする傾嚮あり邦家の爲め慨歎に堪ざるため石城の愛刀家加藤丈夫、酒井國三郎、長谷川豐吉其他同好者相謀り茲に磐城刀劍保存會といふ研究と保存を目的とした團體を組織する事になつた處つて御入會下さい。

▲入會申込所　平町字二丁目　長谷川椅子店方

記

八月三日　於住吉屋本店　磐城刀劍保存會組織準備會當日役員決定

當日は夫々刀劍特寄批評研究をなす

九月　平町住吉屋本店に於て　磐城刀劍大會を開催

當日は東都刀劍の大家本阿彌光遜氏來平講演

發起人一同

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

無料檢眼

TOKIWAYA
皆樣の御眼にピッタリ合つた
眼鏡は……
專門醫師の檢眼で……
正確で工合よい
時計は……
是非當店にて……
平壹　常盤屋時計店　電三三九

石城小名濱港
銘酒　清世界　清水屋
各炭鑛御用達　小野晋平
電話六番

平新川町十九
木村病院
電話一六四
產婦人科院長　木村寅次郎
女醫　木村コウ
內臟外科整形外科醫學士　松永憲一
藥局東京藥學士　萩原駿二

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九
病室完備

木下胃腸藥

總店　第一　健康は胃腸から

錦村中田の一軒屋に殺人强盜押入り
八十老婆をタヲルで絞殺 一千餘圓の貯金通帳强奪
植田署で大活動

石城郡錦村大字中田字上中田梨畑の一棟屋助川忠平の母あき(八二)が二十五日午前五時頃自宅に於てタヲルを以つて絞殺されてゐるのを附近の者が發見大騒ぎとなり早速植田署に急報したので同署では非常召集をなし犯人捜査中であるが未だ逮捕されない被害者は一人で雜貨商を營み小金を貯めて居たので右の事情を知る者の仕業らしく常磐銀行植田支店の貯金通帳一千圓が紛失して居た處から觀て物取りの犯行らしく凶行は二十四日午後十時頃と見られ同家の土臺石の下を掘つて浸入したもので雨戸は全部密閉してゐた急報に接し平檢事局から係官急行嚴重取調中である

平町の 値下交渉
更に藝妓 藥代に

平警察署では理髪料やソバウドンの値下げに成功したので次ぎには料理屋、藝妓屋に交渉せんと下準備中であるが更に進んで目下高價の親玉と云はれてゐる藥代や入院料にも手を着けるらしく町民は警察の出動を大歡迎してゐる

今一週間の炎天で 平上水道斷水
水道課員總出動で 水の節約宣傳

平町では例年の如く夏季中の水不足を懸念し先頃來全町に水道使用上の注意書を配布し取締を嚴重にしてゐるが最近いよ／＼貯水池が著しく減水し今後一週間も旱天が續かうものなら斷水の止むなきに至る狀態とつてゐるので一層節約宣傳をなすと共に取締に嚴重さを加へてゐる一方全然無駄な使用を禁止するため同課員全員を臨時水道監視員に命じ全町を八區に分ち連日各持區の督監をなさしめてゐるが未だ節約觀念に乏しく共同栓から道路庭先等に撒水するもの使用した儘に栓口をあけ放してたく等毎日數十名に上つてゐる有樣である兎も角もあれ使用量は一日一日と增加するのみであれば水飢饉は刻々迫つてゐる譯で非常に憂慮されてゐる

深刻な不景氣でお白粉代にも困る
新田町の姐さん達

平町の花街、新田町の藝者街は宵暗迫る頃となつても三味の音一つ響かない、そうだ、今から二年ばかり前迄は大小の藝妓衆が百二十名ばかりゐたものが、此の不景氣では姐さん達の色香に醉ひざれて太平樂を極め込む大盡も少くなつたのだ、段々に廢業するものが出て現在數が九十名である

◇

永く近頃の深刻な不景氣は、直ちに此の花街に反映して來る一流どころの姐さんは兎も角として大概は稅金、白粉、結髪賃、湯錢の支拂に困るのが多く、女將さん達も營業が維持出來ないからむしろ廢業した方がましだと愚痴る者が又多くなつて來た

△

見番の話によると、月々百本働く者が上の方で一本も稼がぬ茶ッ引專門の姐さんもある、つまり藝術を薄利多賣にする方はどうかと云ふ議論迄出たが、此れは社會敎化上弊害があると警察の方から話もあつたので、現狀維持だが、全く非道い狀態だとある

△

姐さん達もこんな具合で毎日喰込み借金となる一方だからお座敷でも何處でも構はず、寄々協議を初め先づ休業が一番好い策だとあつて、打揃つて醫者の診斷を受け胃腸加答兒の病名で休業屆をとつと平署に差出した休業すれば先づ稅金を納入しなくとも濟むと云ふ譯なのださて休業はして見たが閑な身の置き處に困つてゐる者が多く、苦熱に耐へがたい女部屋にごろ／＼して居り、此處にも失業同然の者が出てまご／＼と四苦八苦の憂目を見てゐる譯である

石城郡下の稻作 一萬石增收か
天候に惠まれて 發育良好

石城郡下の稻作況は苗代當時の素直な發育に加へて年々水不足になやまさるゝ小名濱、草野、夏井等の方面か今年は適度の降雨で植付か茲數年來かつてない順調さに終了を遂げその後も依然溫度と雨量にめぐまれてゐる關係から一般に發育は申分なく豐作疑ひないがたゞ穗孕み期に濕潤な曇天が續くと「イモチ」病が發生相當甚大な被害を免れないが目下の處それらの心配も必要なく且肥料不足の懸念も自給肥料が獎勵と自覺とで豫想以上に施されてゐるので案ずるに足らぬので平年作の十三萬石にひき今分では十四萬石以上を豫想される好成績を示してゐる

校歌作製計畫

石城郡勿來尋常小學校同窓會では敎育勅語煥發四十年記念事業として今回校歌の作製する事となり近く寄附募集に着手するが第二高等學校敎授土井晩翠氏に作歌を依頼する豫定の由

勿來町 海濱學校

石城郡勿來尋常高等小學校では海の研究体育指導海事思想の涵養を目的とし今二十五日より二日間勿來海岸櫻雲莊附近に於て海濱學校を開催するが尋三以上及び專修學校生徒全部が參加する猶尋二以下の生徒の爲めには二十四日より三日間學校、國魂神社、向島櫻樹林に於て林間學校を開くと

白銀町の 蠅取デー
各戸に蠅取紙を配布

平町白銀町では夏期中毎日曜日の蠅取デーに區費を以て各戸に蠅取紙を無料配布し夏期衛生の完璧を期することに決し綠川衛生區長等目下手配中である

夏季に起る病氣
心得るべき手當法

夏季休暇中に於ける兒童の聚樂遠足、旅行等には炎暑の爲め病氣其の他の身體的故障を起し易い。これに對する「應急手當」に就て大日本學校衛生協會の本圖暗乙助氏は左の如く語つてゐる

一、卒倒 冷靜な樹林中、又は家屋内に移し上衣、シャツの釦をはづし、胴締を解き、靜かに仰臥せしめ、此際顏面蒼白なれば頭部を低くし、顏面紅潮すれば頭部に高く枕をあて、嘔吐せる場合は顏面を横に向かせエーテル精三四滴を一杯の水に和して飮ませ、又赤酒日本酒、燒酎を與へ顏面四肢を濕布にて拭ひ頭部、胸部を冷却する。卒倒者も失神せる時は顏面、胸部に冷水をそゝぎ左胸部を濕手拭で輕打する、そしてアンモニア水又はエーテル精を布片に浸し嗅がしめ、手の平、足裏を刷毛又は布片で摩擦する、醒めれば茶、湯、コーヒー等をのませる。

二、便秘 朝食前コップ一杯の冷水をのませる、又は蓖麻丸一回五粒服用。

三、鼻出血、頭部を高くして仰臥せしめ、鼻部を冷水又は氷で冷す。

四、齒痛 沃度丁幾塗布後食鹽水でうがひさせる。

五、打撲傷(打腫紫斑)カンフル丁幾又は沃度丁幾か塗布する。

六、損傷 不潔なればオキシフル又は百倍石炭酸水で洗ひ沃度ホルムガーゼをあて繃帶する、顏面なれば五十倍硼酸水で洗ひガーゼのみあて繃帶する。

七、心悸亢進、左胸部を冷水で冷し、ヂキタリス丁幾十滴を水に和して飮ます

八、喀血吐血 靜臥の上胸頭部を氷嚢に冷し、一匙の食鹽に水を和して一度にのませる。談話は嚴禁です。

九、腸加答兒(下痢、腸痛)腹部を溫め靜臥させる阿片樟腦丸一回一粒服用させる。尙ほ携帶すべき衛生材料としては前述の疾病に要する藥品と、外傷の準備としてガーゼ、繃帶絆創膏鋏、毛拔等を忘れてはならぬと注意してゐる。

四倉の 海水浴場に
平驛から臨時列車運轉

平驛では四倉海水浴場へ左記臨時列車運轉

	平驛發	四倉着
廿六日	前九、〇〇	九、一六
廿七日	一〇、〇三	一〇、一九
八月三日	後三、四〇	四、〇五

	四倉發	平着
同十日	後四、二四	四、四三
同十七日	前九、三六	九、五六
同廿四日	一〇、三〇	一〇、五三

屠殺場の町營は町民の希望
目下調査中

平町が屠場の買收計劃を立てゝ居る事は既報の如くなるが右が實現してこの屠場が町營となれば平火葬場から得る純益と合せて町の財源を造り上水道、役場廳舍新築と共に三大計劃の一となつてゐた下水道工事費にあてる事が出來、上水道も完成、擴張工事も近く着工の運びとなり役場の廳舍新築が財源が出來たので今年中には完成を見る順序となつた際殘つて居るのは不衛生極まる下水道だけで、伏見町長も是非下水道は完備する必要があると語つて居り平屠場、平火葬場等から上る利益が下水道工事費にあてられる事になれば平町將來の爲めであると言はれ平屠場の町營實現は各方面から喜ばれてゐる

石城郡農會で農村の不況打開
今は只安閑を許さぬと 切拔策を討究

底知らずの不況は農家の生產物のことごとくを低落せしめ生產費と收入のバランスを滅茶苦茶ならしめて居り窮狀は實に慘たる有樣にあるが生產物はいよ／＼下落步調を辿るのみで益々收入は減じ文字通り疲弊困憊の極に達し藁掻けど如何ともなることではないが今は安閑としてゐられぬ境地にあるので石城郡農會役員は近く郡農會事務所樓上に會同しこの切拔對策を講ずることゝなつた從來の如き二階から目藥的の手ぬるい方法でなく眞劍な叫びの集中であり頗る重大な意義ある對策として一般の視聽を集めてゐる

植田繭市場
設立認可申請

石城郡植田町產業組合組織の植田繭市場利用販賣組合は今回創立準備整ひ二十四日代表者猪狩清昇氏から縣に對し設立認可の申請を爲したが今秋繭期から市場を開場する見込みである

湯本驛の 居睡番人
三百圓の罰金に不服で上告

石城郡湯本町大字湯本鐵道踏切看守人小久四郎(二二)が居眠りから去る三月十七日午前一時頃湯本驛構內小名濱鐵道踏切を進行中の急行列車のベルに慌しく遮斷機を下ろした爲め線路にさしかゝつた同郡平町自動車運轉中高岡久のトラックは進退不可能となり遂に列車と衝突するに至り重傷者四名即死三名を出すに至つた同看守人に係る業務上過失致死並に傷害被害事件は公判の結果一二審共罰金三百圓判決言渡され不服で二十四日上告した

平町の 救濟兒童
二十名に晝食を惠む

平町では欠食兒童並にこれに準ずる救濟を要する兒童數を調査した所二十八あつたので差し當り過日佛敎善導會が托鉢によつて集めた金八十四圓の寄附があるのでこれを流用し一人當り一食四錢の割で各學校に於て兒童に晝食を與へる事になつたが右兒童の內實際に欠食して居る者二三名である

明廿六日は愈々土用丑
町內鰻丼安値

最も熱い最中の明廿六日は「うし」の日に當つてゐるので地方の習慣としてうの字のつく物を食ふ慣になつて居るので市內各商店は明日を目あてに盛んに宣傳をなしてゐるが例年牛、馬、鰻うさぎ、肉其他うどん、うーめん、うめ等で値段も幾分高くなつて來た樣であるが鰻は上物百匁七十錢中五十錢鰻丼が五十錢蒲燒一七普通物五十錢ぐらゐで牛肉はヒレ九十錢ロース七十錢上肉六十錢並肉四十錢百匁とあるが平屠殺場で廿五日屠殺した數は牛十頭馬十三頭豚十一頭である

吸鳴られるのが辛へ 平局の交換孃
此の暑熱と闘つて 忙しい職務に專念

平町地方昨今の暑熱は毎日九十度を越へ居堪りもならぬ苦しさだが此の暑さの最中を甲斐／＼しくも婦人職業の第一線に立つて汗よく暇もなくモシ／＼を繰返す平局の交換孃(改名して電話交換事務員)現在四十名は愬ふした苦熱と闘つて毎日市內九臺市外七臺の交換臺に十六名づゝ交代して働へてゐる先づ一人の就職時間は一時間に休憩十五分であるが某主事の語る所に依ると一時間に市內電話加入者のうちからヂリヂリンときてモシ／＼と呼んで交換く數は多くて一臺五十回以上に達し交換孃ならでは味ふことの出來ぬ苦惱があるそこへ以つて來て加入者から吐鳴り散らされる時等一々た詫びに出なければならぬ忙しいものでどうしてどうして並大底の仕事ではないと云う日中一番呼數の多いのは午前八時から十時迄午後は四時から五時までは目が廻りさうであるとのこと、さて愬ふした多忙な職掌の交換孃の給料はどれ程か尋ねて見ると見習が一日四十五錢少しなれて五十錢以上だとの事である

材木町賭博
平署に御用

平町材木町小松芳吉(四二)方で二十日午後一時より六時まで若松始め平町長橋町福德生命勸誘員前科二犯小松傳十(四九)紺屋町和木民平(三〇)鈴木幸三郎(四九)大谷榮治(四九)根本松太郎(三五)の六名は現金賭の花賭博開帳中平署刑事に探知され拘引された

八十老爺 風呂と心中
廿四日內郷村で

石城郡內郷村內町水居出小板出橋ミヨ養祖父小板田橋芳吉(六二)は二四日午後十時家人の寢靜つた頃自宅の風呂に入りその儘死んで居るのを翌朝家人が發見大騷ぎとなつたが原因は老衰の結果であると

小田礦の 死体發見

既報の如く石城郡好間村北好間行人坂小田炭礦に於て出水の爲坑夫五名が生死不明となつたが二十四日午後四時頃新斜坑右二坑道に於て鎌田村阿良久戶主ツノ養子安藤與平(二五)の死体が發見され九時坑外へ運び出したが腐敗し切つてほとんど人相不明であつたと

大和田醫院

丑の日二十六日 大賣出し!!
大蒲燒 金一圓也
鰻丼 金七十錢
何れも極上品
當日の御來客樣に限り御一人前 金一圓五十錢
上蒲燒(若くは丼) お碗 しんこ(きも吸) 御銚子一本 付
右之通り大勉强仕り候間多少に不拘御用命の程偏願上奉候
平 南町 大和家 電話十四番

大蒲燒 五十錢
うな丼 三十五錢
どぜう丼 三十錢
柳川 二十五錢
ヒラキうなぎ 百匁 五十錢
ヒラキどぜう 百匁 三十錢
仕出し專門 相馬屋川魚店 南町 電話二七一番

土用丑の日 上例により 牛肉大賣出し
大奉仕 品質特ニ優良
牛中 肉 百目 金貳十錢
同上 肉 同 金四十錢
同中ロース 同 金五十錢
同上ロース 同 金七十錢
同 ヒレ 同 金一圓也
牛なべ御一前 ロース 同 四十錢 ヒレ 同 五十錢
多少に係らず御屆け致します。
牛 鳥 どぜう 御料理 石川亭 平町田町 電 四三

蒲燒 鰻丼 特賣
土用丑の日迄本日より左記の通り大勉强特賣致します
鰻蒲燒 一人前 壹圓
鰻丼 八十錢
平町南町 松本樓 電一一三番